



## すべての商売は人間関係が要！ 人と人のつながりが 情報・モノ・心を動かす

株式会社小林多男商店 代表取締役 小林直之氏

笹の葉をはじめとする葉もの類や木の実・雑穀・青果材料など、天然の素材をメインに扱う「小林多男(かずお)商店」。創業者である父・多男さんの名を冠した同社を率いてきたのが、今回ご登場いただく小林直之さんです。全国でも数少ない天然物を主に扱う企業特有の難しさと、2代目流の経営スタンスについて尋ねました。

### ■18歳から6年の丁稚奉公を経験

当社は、昭和25年に長野市松代町で私の父が始めた小さな菓子舗から歴史をスタートさせました。幼い頃から漠然と家業を継ぐものと考えていましたので、高校を出てすぐに松本の商店に丁稚奉公に行きました。その間、特段苦勞に感じることもなく、むしろ商売の基本を教えてもらうなど貴重な経験が得られたと思っています。



### ■父の努力を思えば苦勞も困難もない

奉公の時代を含め、2代目を引き継いでから現在まで大きな危機や苦勞を感じたことはありません。と言いますのも、創業者である父が物のない時代に今では想像も付かぬ程の苦勞を重ねて商売を軌道に乗せたことを思えば、私の時代にそれに匹敵する困難なんてないからです。もちろん、当社の主要商材は笹の葉に代表される天然物なので、収穫の量も時期も自然に左右される不安定さがあります。それが原因で資金不足に陥ったこともあります。そんな時こそ現状を把握して受け入れることが大切です。自然相手に人ができることは限られているという現実を認識し、それでも当社を頼ってくださるお客様の期待に応え続けたいという想いを新たにします。



「休みの日もここ（会社）に居る方が落ち着くんだよね（笑）」と、直之代表。情熱を注いでいる分だけ、天然物に関しては絶対の自信がある。くわえて、ここ数年相次いで帰郷した2人の息子さんの支えも得て、商品の拡充と組織の成熟を図るべくさらなる発展と成長を誓う。

### ■すべてを引き寄せる人間関係が要に

ここ10～15年で食の安全・安心に対する意識が高まり、天然物も例外ではなく検査の基準や扱い方が厳格化されました。デリケートな素材ゆえに機械化が難しく、以前にも増して従業員たちの確かな目ときめ細やかな作業に頼るようになってきています。このように時代の変化に添う苦勞もありますが、一方で天然物に対する理解の深化と価値を見直す動きを実感するようになりました。こうしてここまで何とか商売を続けて来られたのは、仕入れ先農家や生産者の開拓、ニーズの掘り起こし、産地と当社を結びつけてくれる仲介役との縁、優秀な従業員との出会いなど、情報・モノ・心を動かす力を持った【人とのつながり】を大切に育んできたからだだと思います。



### ■「なりゆき」に任せてみるのも有益！

商材が天然物だからというのがありますが、私はずっと「流れに逆らわず、いい波が来たら迷わず乗る」というスタンスを貫いています。焦ってその場しのぎの策を講じてうまく行くことは少ない。ならば、もどかしくとも機が熟すまで力を蓄えておけば、やがて訪れるチャンスを最大限に生かすことができる、と考えるからです。

小林直之氏(こばやし・なおゆき)  
株式会社小林多男商店 代表取締役

長野市松代町出身。1986(昭和61)年より現職。同郷の愛妻と共に歩み続け、平成8年には本社・工場の現所在地への移転を成し遂げている。

